

令和6年度 学校評価 報告書

報告日
令和7年3月 10 日

幼稚園名	芦屋市立宮川幼稚園
園長名	星川 明美

1 今年度の重点目標

- 教育課程の推進
- 幼児期から小学校気への円滑な接続の推進
- 地域と連携した豊かな保育や子育て支援

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 評議員会及び学校関係者評価委員会を対面で行った。
- 保育の様子を参観いただく。
- 保護者アンケートを実施、集約して保護者へ周知している。
- 学校評価アンケートの結果や日々の生活を可視化し、評価を受ける。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点目標	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策
1	教育課程	1 2	○身近な生き物とのふれあいや、草花、自然の事象に心を動かす出来事に触れる保育を進めた。その中で幼児が能動的・主体的に関わり、試行錯誤しながら、意味を見出せる方法を模索してきた。また、経験したことをICT機器を活用しながら幼児・保護者・地域が連携できるように可視化し、幼児一人一人の見方・考え方を発表する場をつくってきた。 ○小中学校と連携し、相互に訪問する機会をつくった。幼児が小中学校の環境や先生・児童・生徒に親しみをもち、成長することへの期待感を高められるように連携を図った。	A	○芦屋市の教育課程に沿って実体験を中心にICT機器を活用しながら感性を育て、科学する心が芽生える保育を目指していく。そのために家庭・地域・教育財団等の評価を受け、子どもたちの2年間をかけての変容を確かに捉え、就学以降の育ちにつながるよう日々の検証を行う。 ○2年保育での発達に沿って計画的に就学施設との交流をしていることを保護者に伝え、連携を実感していただく。
2	地域連携	1 3	○地域のさまざまな方に見守られ、支えられて生活していることを実感できるように芦屋の町の美しさや人の温かさを感じられる保育を展開してきた。年間を通してアクションプログラムの方と共に手話歌を園全体で取り組んできたことで、芦屋の町がより好きになり、感謝する気持ちがもてるようになった。 ○浜町自治会の方やこども会・卒園生と一緒に千羽鶴をつくり、近隣の小中学校や未就学施設の慰霊碑にたむけにいく過程で命の大切さを学んだ。	A	○地域とのかかわりを年間を通して重ねていくことでより親しみをもち、子どもたちや保護者の方の視野がひろがっていくようにする。 ○地域のイベントへの参加、園として協力できること・発信できることを模索していく。

4 評価項目に係る学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善方策についての評価
○実体験を軸にして、子どもたちの探究心と可能性をひきだす独創的な保育を展開している。 ○2年間の育ちの過程がよくわかる。保育参観の中でとくに年長組では、相手の立場にたって行動している場面がみられた。 ○教育施設間の連携において互いに刺激しあい有意義なものとなっている。来年度も子どもたちの育ちを願い連携を推進されることを願う。
○地域との新たなかかわりが生まれ互いにより相乗効果がでている。 ○宮川幼稚園が地域の拠点となっている。来年度以降も連携をし、この町に暮らしていてよかったと思えるように互いに努めていく。

5 総合的な学校関係者評価

- 一人一人を大切に受け止めて教育・保育をしている。少人数ならではのよさという反面、園児数が減っていくことが残念である。
- 実体験をもとにICTを活用した将来を見据えた保育実践を評価する。とくに年長児の発信する力がついている。子どもたちの今後は楽しみである。